

会話における「そうしたら」と「そうすると」の使用傾向

川端 良子[†]

Yoshiko Kawabata

[†] 千葉大学 融合科学研究科/国立国語研究所 音声言語研究領域

Chiba University, NINJAL

ykawabat@gmail.com

概要

「そうしたら」と「そうすると」の会話における使用傾向を『日本語日常会話コーパス』を用いて分析した結果、前件の事実関係によって形式の使用傾向に偏りがあることが明らかになった。

キーワード：条件表現、そうしたら、そうすると、日常会話、コーパス

1. はじめに

日本語の条件表現には「タラ」「ト」「バ」「ナラ」等の形式があり、各形式の間には微妙な違いが存在する。このことから、これまで多くの研究者によって各形式の統語的・意味的特性の説明が試みられてきた。こうした特性は、研究者が表現の形式を換えるなどして意味が変化するかどうかや、自然な日本語の文として認められるかどうかを調査した結果に基づいて提唱される。これまでの研究では、提案された特性が実際の言語活動で、どの程度出現するのかという点は十分には検討されてこなかった。そこで本研究は、条件表現の一部である「そうしたら」と「そうすると」に注目して、実際の会話でどのような状況で使用されているか分析する。

2. 従来研究

さまざまな観点から条件文の研究がなされているが、その1つが前件と後件で表される事態の事実関係である[2]。表される事態の事実関係によって使用される条件表現が異なると考えられており、さまざまな区分が検討されてきた。特に表される事態が「仮定」であるか「確定」であるかが区別されることが多い。仮定とは、一般に未来のこと、仮想的なこと、実現するかどうか不確かなことである。確定とは、現在や過去の事態などすでに実現した事態のことを指す。

タラ形式とト形式に共通する点として、確定的な事態のうち、一回的(偶発的)に生じた事態の関係を叙述する用法があるとされる[3, 4]。一方、仮定的な事態については、タラ形式は、未来の場合と反事実的な事態を表すのにも使用されるのに対して[5, 6, 7]、ト

形式は、「もし、私が鳥であれば、あなたのところに飛んでいけるのに」「あの薬を飲んでいたら、いまごろは大変なことになっていたところだ」[4](194)などのように反事実的事態を表す場合には使えない、もしくは馴染まないとされている[4, 5]。また、前件もしくは前件と後件で表される事態が1回的に生起することであるのか、反復・習慣的(多回的)に生起することであるのかで使い分けがあるとされる。タラ形式は、多回的な事態を表す用例がほとんどないのに対し、ト形式は1回的・多回的共に使用されると言われる[3]。

3. 方法

分析対象として『日本語日常会話コーパス』(以降ではCEJCと呼ぶ)を用いた。CEJCは、国立国語研究所の共同研究プロジェクト「大規模日常会話コーパスに基づく話し言葉の多角的研究」で現在構築中(2022年完成予定)のコーパスである[1]。CEJCには200時間の会話が収録される計画であり、そのうち50時間が2018年度中にモニター公開される予定となっている。モニター公開対象となっている会話はすでに転記され、形態素解析情報が付与されてデータベースに格納されている。現在は解析結果の誤りや転記の修正作業が行われている。本研究では、モニター公開対象となっているデータから「そう(副詞)」+「する(動詞)」+「た(助動詞-仮定形)/と(助詞-接続助詞)」が出現する箇所をデータベース(2018年5月時点の状態)から取得し分析対象とした。

上記の条件でデータを抽出した結果、「そうしたら」は170件、「そうすると」は84件抽出された。それぞれについて、まず後件の特定を行い、その後件の成立に関わる前件の特定を行った。前件と後件の両方が特定できたもののみを分析対象とし、どちらか一方でも特定できないものは分析対象外とした。この手順で分析対象としたものについて、事実関係(表1)のアノテーションを行い、それぞれの形式が実際の会話でどのように使用されているかを明らかにする。

表 1 前件の事実関係の分類

事実関係		内容
反事実		事実と異なること．または，起こることが想定されていないこと．
未来		会話参加者の将来の計画・予測・期待する(されている) こと．
過去	一回	過去のある時点で偶然に起こったこと．
	多回	過去に複数回起こったこと．過去の認識，知識，習慣．
現在	一回	会話中に行なわれていること．
	多回	過去，未来の特定の出来事に限定されないこと．複数回起こること．現在の認識，知識，習慣．

4. 結果

前件と後件の特定を行った結果，分析対象となったのは「そうしたら」153 件,「そうすると」が 80 件の計 233 件だった．分析対象について事実関係のアノテーションを行った結果を表 2 に示す．

表 2 に示したように,「そうしたら」と「そうすると」の使用は前件の事実関係によって偏りがみられた．具体的には, [反事実] 的事態を表わす場合は, 全体として数はすくないものの, すべてタラ形式が用いられていた．また, タラ形式は [過去/一回] 的事態を表す場合で使用される例が最も多く, ト形式では [現在/多回] の使用が多かった．特に顕著なのは, [過去/一回] 的事態を表す場合で, 約 95%(63/66) でタラ形式が使用されていた．

5. 考察

反事実的事態を表わす場合はすべてタラ形式が用いられていたことは, ト形式は反事実的事態と馴染まないと従来より言われてきたことについて本研究でも確認されたといえる．一方, 従来研究からの予測と一致しない傾向も見られた．それは, タラ形式が少なくないう頻度で [多回] 的な事態を表わすのに使用されていたことである．前田 [3] は, タラ形式は多回的事態を表す用例がほとんどないとしていた．しかし, [現在] 的事態を表わす場合に注目してみると, [一回] 的事態を表す場合より [多回] 的事態を表わす場合のほうが多かった．タラ形式は [過去/一回] 的事態を表わすこと

が多いため, タラ形式内で比較すると [過去/多回] 的事態を表す場合が少ないようにも見えるが, [過去/多回] を表すト形式も少ないため [過去/多回] が少ないことがタラ形式の特性とは言えない．タラ形式は [多回] 的事態を表す用例がほとんどないというよりは, [過去/一回] 的事態を表す場合はほとんどがタラ形式でありト形式がほとんどないという方が適切であろう．

したがって, [反事実][過去/一回] 的事態を表す場合にタラ形式が使用される傾向があると言えそうであるが, それ以外の [未来][過去/多回][現在/一回][現在/多回] の場合ではどのような要因でタラ形式とト形式が選択されているかについてはさらに分析する必要がある．

6. まとめ

本研究では CEJC を用いて,「そうしたら」と「そうすると」の使用傾向について分析を行った．従来議論されてきた前件が表わす事実関係についてアノテーションを行い, それぞれの使用頻度を調査した結果, 従来研究からの予測と異なり, タラ形式も [多回] 的事態を表すのに使用されることが少なくなかった．むしろ, [過去/一回] 的事態を表す場合にタラ形式が使用されることが多く, ト形式ではほとんど使用されない傾向が見られた．今後は, タラ形式とト形式の使用傾向に差が見られなかった状況においてどのような要因で形式の選択されたのかを明らかにすることが課題である．

文献

[1] 小磯ほか, (2017)”『日本語日常会話コーパス』の構築”『言語処理学会第 23 回年次大会発表論文集』,pp.775-778.

[2] 有田節子, (1993)”日本語条件文研究の変遷”『日本語の条件表現』益岡隆志 (編), くろしお出版, pp.225 – 278.

[3] 前田直子, (1991), ”条件文分類の一考察”『日本語学科年報』13, 東京外国語大学,pp.55-80.

[4] 益岡隆志, 田窪行則, (1992), 『基礎日本語文法-改訂版-』, くろしお出版.

[5] 益岡隆志,(1993), ”日本語の条件表現について”, 『日本語の条件表現』益岡隆志 (編), くろしお出版, pp.1 – 20.

[6] 森田良行, (1980), 『基礎日本語 2』, 角川書店.

[7] 森田良行, (2007), 『助詞・助動詞の辞典』, 東京堂出版.

表 2 前件の事実関係別出現頻度とタイプ別の出現比率

N(%)	反事実	未来	過去		現在		計
			一回	多回	一回	多回	
タラ	5 (3.3)	37 (24.2)	62 (40.5)	8 (5.2)	11 (7.2)	30 (19.6)	153 (100)
ト	0 (0)	18 (22.5)	4 (5.0)	7 (8.8)	7 (8.8)	44 (55.0)	80 (100)
計	5 (2.1)	55 (23.6)	66 (28.3)	15 (6.4)	18 (7.7)	74 (31.8)	233 (100)